

## 衛星通信システム委員会報告（案）に対する意見募集の結果

「非静止衛星を利用する移動衛星通信システムの技術的条件」のうち

「1. 6GHz帯／2. 4GHz帯を用いた移動衛星通信システムの技術的条件」

（意見募集期間：平成28年12月23日～平成29年1月27日）

## 提出された意見と衛星通信システム委員会の考え方

No	意見提出者	提出された意見（全文）	委員会の考え方	提出意見を踏まえた案の修正の有無
1	個人	<p>移動衛星通信システムについて、現在、L帯、S帯、C帯、Ku帯について稼働しております。衛星電話に関しては、大手電気通信会社から提供されておりますが、いずれも月額料金、通話料金ともに高額であり、一般の法人、個人が利用している頻度は低い状態であります。参考資料の図参 1-1-3 で衛星通信システムの国内無線局数が年を追うごとに増加しており、移動衛星の導入としては後発の Thuraya はソフトバンクより 2013 年にサービスが開始されました。衛星電話の利用の merit を考えてみると、図参 1-3-3 にあるように災害時の地上通信インフラ損傷時の利用、携帯電話不感地帯での利用が挙げられます。特に 2013 年の東日本大震災以降、自治体を中心にして防災の観点から必要性が高いと考えられます。このような状況の中、「低軌道周回衛星を利用した高品質・高効率・低価格なグローバル衛星通信ネットワーク」として、グローバルスターが導入されるのであれば、私は本総務省案に賛成します。</p> <p>新移動衛星通信システムの導入において、広域災害発生時のバックアップ回線としての利用、携帯電話不感地帯（海上、山間部）での利用、参考資料 1.4.4 及び 1.4.5 にあるようなトレーサビリティとしての活用に期待します。このトレーサビリティとしての利用に関して、「参考資料 4 無線 LAN・小電力データ通信システムとの干渉検討」で IEEE802.11b の屋外使用において衛星携帯電話の通信が困難になる可能性があることが指摘されており、「実環境での通話試験」、参考資料 表参 4-3 で繁華街での衛星携帯電話の利用で一部建物等による遮蔽により通信困難が発生することが判明しております。一般の法人、個人の需要として位置情報取得の希望を感じる事が多く、GPS や準天頂衛星システム等を含めてグローバルスターも相互的補完ができ、移動局の測位精度が向上することに期待します。</p>	委員会報告（案）に賛成のご意見として承ります。	無

2	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・17ページの3行目「約 560m」: 表 2.9 では「560m」なのに、ここでは、なぜ「約」を記載したのですか？</li> <li>・17ページの6行目「150m 以下」: 18ページの「ルール」では「150m 以上」なので、ここでは「150m 未満」ではないのですか？</li> <li>・22ページの11行目「人体頭部の比吸収率を 2」: 頭部については無線設備規則第 14 条の2には規定がなされていません。「2」の根拠は何ですか？</li> <li>・30ページの「氏名」: 別表1と同様に、ふりがなを振ってください。</li> </ul>	<p>委員会報告(案)に賛成のご意見として承ります。</p> <p>ご意見を踏まえ委員会報告(案)の記載の修正を行います。</p> <p>本無線設備は、音声通信に用いられることも想定されるため、無線設備規則第14条の2第2項に従って、人体頭部の比吸収率を2W/kgとすることが適当としております。</p>	有
---	----	---	--	---